

# 第3章 みどりのまちづくりの課題

## 3-1 現況からみた課題の整理

### (1) 都市の主な現況からみた課題

	都市の主な現況特性	現況からみた課題
概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町は住宅都市として発展</li> <li>・将来的に人口減少・高齢化が進む</li> <li>・総合計画の将来像は『「このまちが、いい。」わたしたちの誇り 宇美』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇住環境の快適性向上</li> <li>◇人口減少に対応した持続可能なまちづくりが必要</li> <li>◇地域交流の活性化や、高齢者等の健康増進の促進</li> </ul>
自然的土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然的土地利用は都市計画区域の約6割と多く、用途地域内では約2割と少ない</li> <li>・町の東部、南部は豊かな自然環境を有する山林であり、自然公園地域の指定がある</li> <li>・荒廃森林の整備を進めている</li> <li>・農地、農業従事者が減少している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇残された樹林、草地、水面等、自然環境の保全・活用</li> <li>◇森林や農地の保全、農業の振興に向けた取組が必要</li> </ul>
都市公園の整備・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を楽しむ一本松公園や総合スポーツ施設であるゆりが丘中央公園(総合スポーツ公園)をはじめ、52箇所の都市公園がある</li> <li>・一人当たりの都市公園面積は30㎡と大きい</li> <li>・都市公園等がやや多いエリアと少ないエリアがある</li> <li>・比較的規模の大きい街区公園や近隣公園は指定緊急避難所に指定されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自然環境を活かしつつ利便性や集客性向上も考慮した既設公園の効果的・効率的な整備・維持管理</li> <li>◇一本松公園の老朽化対策、快適性・利便性向上が必要</li> <li>◇将来の人口減少等を踏まえた公園の適正配置の検討</li> <li>◇子育て環境の充実に資する公園施設の更新・整備や機能強化等の検討</li> </ul>
市街地の緑化状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地(用途地域内)の緑被率は25.4%で、特に住宅密集地において緑被が少ない</li> <li>・都市公園のほか、廃線跡地を活用した緑道や広場等がある</li> <li>・町営花壇等で町民ボランティアとの共働による花いっぱい運動が展開されている</li> <li>・地球温暖化対策、都市環境の向上の観点から、街路樹整備や施設の緑化を推進している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇みどりの潤いややすらぎを感じられ、地球温暖化対策に資するみどりを活かした市街地の形成</li> <li>◇町民共働による緑化・保全等の推進</li> </ul>
文化的資源の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・由緒ある大野城跡や光正寺古墳、宇美八幡宮がある</li> <li>・町を囲む山並みや河川、滝等の自然や、市街地内のクスの巨木群等が良好な景観を形成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇町の特徴である文化財など文化的な資源の保全・活用</li> </ul>

## (2) 住民アンケートの主な結果からみた課題

	主な町民意向等	町民意向等からみた課題
みどりの豊かさ・満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの緑の現状に対して豊か・やや豊かの割合は全体の約 6 割と高い</li> <li>・以前と比べ現状の緑は変わらないの割合が約 4 割で、減っている・やや減っているの割合も約 4 割と高い</li> <li>・町の緑の現状に対して満足・どちらかと言えば満足の割合が約 5 割と高く、不満・どちらかと言えば不満の割合は約 1 割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 現在のみどりの維持による、みどりの満足度の維持・向上</li> </ul>
保全していくべき場所、重要な役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内で重点的に緑を保全していくべき場所は、公園が約 3 割、次いで河川、森林、公共施設敷地がそれぞれ約 1 割</li> <li>・緑の役割のうち特に重要なものの回答は、心に安らぎを与える場所が約 3 割、空気の浄化、気温などを調整する機能が約 2 割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 現在の公園や河川、森林、公共施設等におけるみどりの保全</li> <li>◇ 散歩や休息、良好な景観、人々に安らぎをもたらすみどりの保全・形成</li> </ul>
緑化の推進・保全活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化の推進・保全活動参加に対し、関心がある・やや関心がある割合が約 5 割</li> <li>・緑化の推進・保全活動は、町民と行政の共働による推進が約 6 割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 町民・事業者が自らみどりを守る・増やす行動を行うための支援メニューの検討</li> </ul>
都市公園の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな公園・身近な公園とも、月に数回以上利用する人が約 2 割、ほとんど利用しない人が約 6 割</li> <li>・利用目的は、散歩休憩等のリフレッシュが最も多い</li> <li>・あまり利用されていないと感じる公園があり、リニューアルや管理の徹底が求められている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 散策等のリフレッシュをはじめとした、多くの町民が利用しやすい公園の整備・維持管理</li> <li>◇ 将来的な人口減少を踏まえた公園の適正配置の検討</li> </ul>
今後の整備方針要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園における、トイレや遊具・ベンチ等の設備の更新や安心して過ごせる環境整備が求められている</li> <li>・行きたい公園として、散策が楽しめる公園や自然や緑をそのまま残した公園、こどもの遊び場や遊具を中心とした公園の割合がそれぞれ約 2 割と多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ トイレや遊具・ベンチ等の設備の更新や安心して過ごせる公園の環境整備</li> <li>◇ 散策ができる、自然と触れ合える、こどもの遊び場が充実している等のニーズに応じた公園や緑の環境の整備・維持管理</li> </ul>

## 3-2 みどりのまちづくりの課題

これまでの整理により、本町では、自然環境や文化的資源を活かし、潤いとやすらぎを感じられる、みどり豊かなまちづくりの推進が必要と考えられます。本町の現況や住民アンケートの結果から、以下の3つの視点で課題を整理します。

### 1. みどりの維持・保全

本町には、山・森林、農地、河川、公園、歴史ある神社など、比較的多くのみどりが残されており、町民のみどりに対する満足度も高い状況です。これらのみどりを維持・保全することで、良好な住環境を形成するとともに、地域の生態系保全への配慮が必要です。

森林については、土砂災害防止や水源かん養の観点からも、適正な維持管理が求められます。

また、公園や街路樹、公共施設におけるみどりは、安らぎや潤い、健康増進、レクリエーション、景観形成など多様な機能をもっており、これらの価値を最大限に生かすための継続的かつ適正な管理が必要です。

※水源かん養・・・森林などの自然環境が雨水を地中に浸透させ、地下水の蓄積や河川の水量を安定させる働きのこと。水資源の確保に加え、洪水の緩和や水質浄化、生態系の保全など、防災・環境面で重要な役割を果たす。

### 2. みどりの育成

町民のニーズに応じた公園の整備検討や公共施設の緑化に加え、水とみどりのネットワークの形成等を通じた、みどりの育成が必要です。

また、町民の日常生活に密接に関わるみどりのまちづくりには、町民・事業者・行政の共働が不可欠です。町民や事業者が自らみどりを守り、育てる行動に向けた支援や仕組みづくりが求められます。

※水とみどりのネットワーク・・・都市化により減少・分断された水辺空間(河川など)や緑地(森林・公園・街路樹など)を相互に連携させたネットワークのこと。水とみどりのネットワークの形成により、自然環境の回復、野生生物の移動経路の確保(生態系の保全)や、都市の防災機能の強化等を図り、質の高い都市環境の実現を目指すもの。

### 3. みどりの活用

本町の特徴である文化財や天然記念物、地域のシンボルとなるみどりなどの文化的資源を保全し、観光資源としても活用することで、地域の価値や魅力を一層引き出すことにつながります。また、自然的資源についても、ハイキングコースやキャンプ場など、自然とふれあう場の整備・活用、情報発信の強化等が求められます。

公園においては、将来的な人口減少等を見据えた適正配置の検討が必要であり、トイレや遊具、ベンチなどの設備更新を含めて、地域のニーズを踏まえた、より多くの人が快適に利用できるみどりの空間づくりが求められています。